

上宮寺通信

第六十一号

「墓じまい」で思うこと

今年の夏は猛暑日の連続で体にこたえる暑さでした。日中はまだまだ暑いですが、ようやく朝晩吹く風に秋の気配が感じられるようになり、少しずつ季節が進んでいる感じがいたします。

9月は秋のお彼岸をお迎えします。この期間にお墓参りに出かけるという人も多いと思います。彼岸花にお墓参り、日本の秋の風物詩といってもいいでしょう。

しかし、その状況が大きく変わろうとしています。今年に入り、ある経済誌が「宗教消滅」という特集を組みました。日本の宗教が衰退しているというデ

ータを挙げての特集でしたが、その中で顕著なのがいわゆる「墓じまい」。ある意味、その流れは仕方ないことかもしれせん。墓は行きにくい場所にあることが多いですし、後継者も遠方に住んでいるということも多い。物理的に墓を維持していくというのが難しい時代です。しかし、墓と一緒に「敬いの心」まで「おしまい」にしてはいけません。

イギリスの歴史家・トインビーは民族が滅亡するときには三つの大きな要因があるとして、「①理想を失う」「②歴史を失う」「③物事を数量で見る」を挙げました。これは民族というだけではなく、一人の人間が生きていく上で大事にしなくてはなら

ないことを言い当てていると思います。

「①理想を失う」とは「自分だけよければいい」という独りよがりになることです。「子どもたちにめんどうをかけたくない」。墓じまいをされる多くの方が言われる言葉です。人間は古代から死者に対して花をたむけるなどして、大切に敬うという習慣がありました。

「②歴史を失う」とは「今だけよければいい」ということで

す。いのちは繋がります。その繋がりの歴史の中で私は生まれ、後の歴史へと繋がっていくのです。先祖を敬うことを忘れてしまった人は、本当の意味で自分自身も大切にすることができないのではないでしょうか。

「③物事を数量で見る」とは

「金やモノだけが大切」ということです。何でもお金に換算して考えてしまう。つまり精神的なゆとりや心の豊かさを忘れるということなのです。

お墓がある人もない人も、「墓じまい」を考えている人も考えていない人も、このお彼岸の時期に、いまの私たちの生き方と照らし合わせて考えてみてはいかがでしょうかでしょう。



◆行事案内

上宮寺の行事

秋季彼岸会・永代経法要

9月8日(金) 午前10時

法要 引き続き 法話

法話 田中智教 師

(名古屋別院主事)

※午前だけの法要といたします。

お斎(食事)、呈茶はございませんのでご了承ください。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月24日(金)

東本願寺報恩講(逮夜)参拝、

聖護院門跡 見学 他

参加費 一五、〇〇〇円

定員 30名(定員になり次第締切)

その他の行事

第70回 舞楽と管絃の会

10月11日(水) 18時半

名古屋芸術創造センター

【演目】

管絃 「盤渉調越殿楽・白柱」

朗詠 「十方」

舞楽 「納曾利」「陵王」

※入場無料



上宮寺公式アカウント



友だち登録をお願いします。

◆話題あれこれ

○台風接近が危惧された今年のお盆でしたが、たくさんの方にお参りいただきありがとうございます。家族でお参りされる方も多く、コロナ前の生活が戻りつつあると実感できました。

○今月8日(金)に秋のお彼岸・永代経法要をおつとめいたしました。先月号でお知らせしたように住職の別院勤務時代の後輩に法話をしてもらいます。ぜひご参詣ください。

○LINEの上宮寺公式アカウントを作成しました。行事をお知らせするとともに、LINEを使っての法要の依頼や相談も受けることができます。上のQRコードを読み取っていただいでぜひ友だち登録をお願いします。

【雑感】

夏の甲子園は神奈川県代表の慶応が一〇七年ぶりの優勝を飾りました。「エンジョイベースボール」を掲げ、練習は選手の主性に任せ、頭髪は自由ということが話題となりました。準優勝の仙台育英も監督が選手にあれこれと口やかましく指導するのではなく、のびのびとプレーさせるスタイル。高校野球の新時代をあらわすような両チームでした。一方、最下位を独走する地元球団はいつも何やら重苦しい雰囲気。慶応や仙台育英の方針を見習ったほうがいいのではないのでしょうか。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547